

次世代RTGS対応（第2期対応）にかかる
総合運転試験（運用確認試験）第1回の結果について

2011年7月18日（月、祝）に実施した、次世代RTGS対応（第2期対応）にかかる総合運転試験（運用確認試験）第1回の試験結果の概要は次のとおりです。

—— 運用確認試験第1回は、2011年3月31日を想定した事務フローを実際に行い、第2期対応後の当座勘定（同時決済口）の決済環境に応じた所要資金の準備や決済の進捗管理等にかかる実務運用の確認・習熟を図る試験です。

1. 試験結果の概要

○ 本試験は、全ての参加予定先（238先）および全国銀行資金決済ネットワーク（全銀ネット）が参加して行われました。

○ システム環境面では、日本銀行側、全銀ネット側、利用先側ともに大きな問題なく終了しました。

—— なお、個別の参加先において、システム環境の設定ミスがみられましたが、第2期対応に向けて特段問題ないことが確認されています。

○ 試験内容面では、当座勘定（同時決済口）における決済は、大口内為取引、市場取引、外為円取引のいずれも円滑に決済が進捗しました。

—— 試験参加先から受領した結果報告書の集計結果は別紙1、運用確認試験における決済データの集計結果は別紙2のとおりです。

○ このうち、大口内為取引についてみると、加盟銀行が全銀システムに対して大口内為取引電文を送信するタイミングは、早期化する傾向にありました¹。また、当該電文の日銀ネット上における待機時間は短い時間に収まっています。大口内為取引の決済方式が時点ネット決済からRTGSに変更される中で、こうした電文送信タイミングの早期化や短い待機時間での決済が実現されたことから、同取引の決済は全体として大幅に早期化されることが確認できました。

—— なお、本試験では、加盟銀行が全銀システムへ送信した大口内為取引電文の一部が、朝方の時間帯において日銀ネットに直ちには投入されないという照会や報告がありましたが、これは以下が背景となっています。

¹ 大口内為取引が内国為替制度における仕向超過額管理の対象外となること、その主な要因と考えられる。

全銀システムから日銀ネットへの電文の送信はあらかじめ設定されたペースで行われます。こうした中で、本試験では、試験参加先が第2期対応後を想定し電文の送信タイミングを早期化したため、全銀システムにおいて朝方に多くの電文が保留されました。この結果、全銀システムにおいて保留された電文の全てが日銀ネットに送信されるまで、一定の時間を要しました。

こうした点を含めた、全銀ネットによる大口内為取引に関する評価は別添1のとおりです。

- また、市場取引および外為円取引についてみると、本試験における決済進捗は、想定日と概ね同程度となりました。したがって、これらの取引では、大口内為取引が当座勘定（同時決済口）における決済処理の対象となる第2期対応後においても、現行と同程度の決済進捗が維持できるものと考えられます。

—— 短期金融市場取引活性化研究会による市場取引に関する評価は別添2、全国銀行協会による外為円取引に関する評価は別添3のとおりです。

2. 今後の予定

- 運用確認試験第2回を9月19日（月、祝日）に実施する予定です。試験参加先においては、引き続き、次回の試験に向けた準備を着実に進めるようお願いします。

—— 第2回は、月末日に次ぐ大口内為取引の繁忙日を想定（想定日は2011年7月20日）し、第1回と同様に、第2期対応後の当座勘定（同時決済口）の決済環境に応じた所要資金の準備や決済の進捗管理等にかかる実務運用の確認・習熟を図ることを目的としています。

—— 止むを得ない事情により、日本銀行が必要と認める場合に限り、予備日（10月16日（日））を用いて運用確認試験を追加的に実施します。万が一予備日を使用する場合には、試験参加先のRT連絡責任者に連絡する予定です。

<本件に関する照会先>

日本銀行 決済機構局 決済システム課 決済企画グループ

代表電話番号 03-3279-1111

西澤（内線 2957）、土屋（内線 2963）

以 上

運用確認試験第1回結果報告書の集計結果

< 貴社において事前に予定していた試験内容を問題なく実施できましたか。 >

問題なく実施できた	一部実施できなかった
231 (96.7%)	8 (3.3%)

(注) 括弧内はR T全参加先に占める構成比。

< 問題のあった点、実施できなかった点、ご意見・質問等 (抜粋) >

試験環境の準備	システムの設定ミスにより、内為専用時間帯の開始直後 (8時30分) の当座勘定 (同時決済口) への資金振替に時間を要した。9時過ぎには解消し、その後の資金決済に影響はなかった。
試験手順の誤り等	取引相手の実施手順書の理解不足により、予定されていた入金が行われない取引があった。
	打鍵ミスにより、大口内為取引電文を、想定日とは異なる銀行へ送信してしまった。
	ミスにより、大口内為取引電文の一部を二重送信してしまった。
その他	全銀システムへ送信した大口内為取引が、日銀ネットに直ちには投入されないため、大口内為取引の一部の決済時刻が9時以降となった。

運用確認試験第1回における決済データの集計結果

1. 当座勘定(同時決済口)における取引件数および金額

		運用確認試験第1回	(参考)想定日(3月31日)
大口内為取引	件数	53,941	53,635
	金額	42兆円	41兆円
市場取引	件数	5,620	5,739
	金額	33兆円	34兆円
外為円取引	件数	37,571	38,136
	金額	16兆円	16兆円
合計	件数	97,132	97,510
	金額	91兆円	91兆円

- (注)1. 市場取引は「振替依頼(同時決済口)」、「振替依頼・付記電文付(同時決済口)」、大口内為取引は「振替依頼・内国為替(同時決済口)」、外為円取引は「CUSTOMER TRANSFER (QUEUE OFFSET)」、「BANK TRANSFER (QUEUE OFFSET)」を対象として集計。以下同様。
2. 取り消された取引は含まない(自動取消された取引も含まない)。以下同様。
3. 運用確認試験では原則として想定日の取引データを利用することとしているが、希望先同士が各自調整のうえ、予め合意した仮想データを利用することは妨げていない。このため、運用確認試験の決済データには、想定日で行われていない取引が含まれる。
4. 想定日の決済データには、運用確認試験に参加していない先の取引を含む。

2. 平均送信時刻および平均決済時刻

		運用確認試験第1回	(参考)想定日(3月31日)
大口内為取引	平均送信時刻	10:35	10:57
	平均決済時刻	10:35	17:15
市場取引	平均送信時刻	11:08	11:30
	平均決済時刻	11:09	11:32
外為円取引	平均送信時刻	10:28	10:37
	平均決済時刻	10:31	10:41
合計	平均送信時刻	10:45	11:06
	平均決済時刻	10:47	13:59

- (注)1. 想定日における大口内為取引の平均送信時刻は、先日付電文の送信時刻を内国為替制度上有効となる時点、すなわち、全銀ネットが債務の引受けおよび債権の取得を行う全銀システムの通信開始時点(想定日<月末日>では7:30)とみなして算出している。
2. 想定日における大口内為取引は、為替決済により、全ての取引が一律決済開始時刻(想定日<月末日>では17:15)に決済されている。
3. 平均時刻は、決済金額により加重している。すなわち、(金額と時間の積の総合計)/(金額の総合計)として算出。以下同様。
4. 運用確認試験では、当座勘定(同時決済口)の終了時刻を15:30と設定している。これに伴い、運用確認試験では、指図投入時刻が14:00～16:00の取引は一律14:00に、指図投入時刻が16:00～17:30の取引は一律「2時間早い時間」に読替えを行っている。

3. 平均待機時間

	運用確認試験第1回	(参考)想定日(3月31日)
大口内為取引	0:00:19	—
市場取引	0:01:55	0:02:29
外為円取引	0:03:30	0:03:41
全体	0:01:28	—

- (注)1. 待機時間は、当座勘定(同時決済口)に指図が投入されてから決済されるまでの時間。
2. 平均待機時間の単位は、「時:分:秒」。

4. 待機時間別決済件数(構成比)

	運用確認試験第1回			(参考)想定日(3月31日)	
	大口内為取引	市場取引	外為円取引	市場取引	外為円取引
待機なし	96.7	90.4	95.8	84.5	89.4
～15分	3.2	5.1	3.0	11.8	6.2
～30分	0.1	3.5	0.7	3.0	2.4
～60分	0.0	1.0	0.4	0.6	1.7
60分以上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3

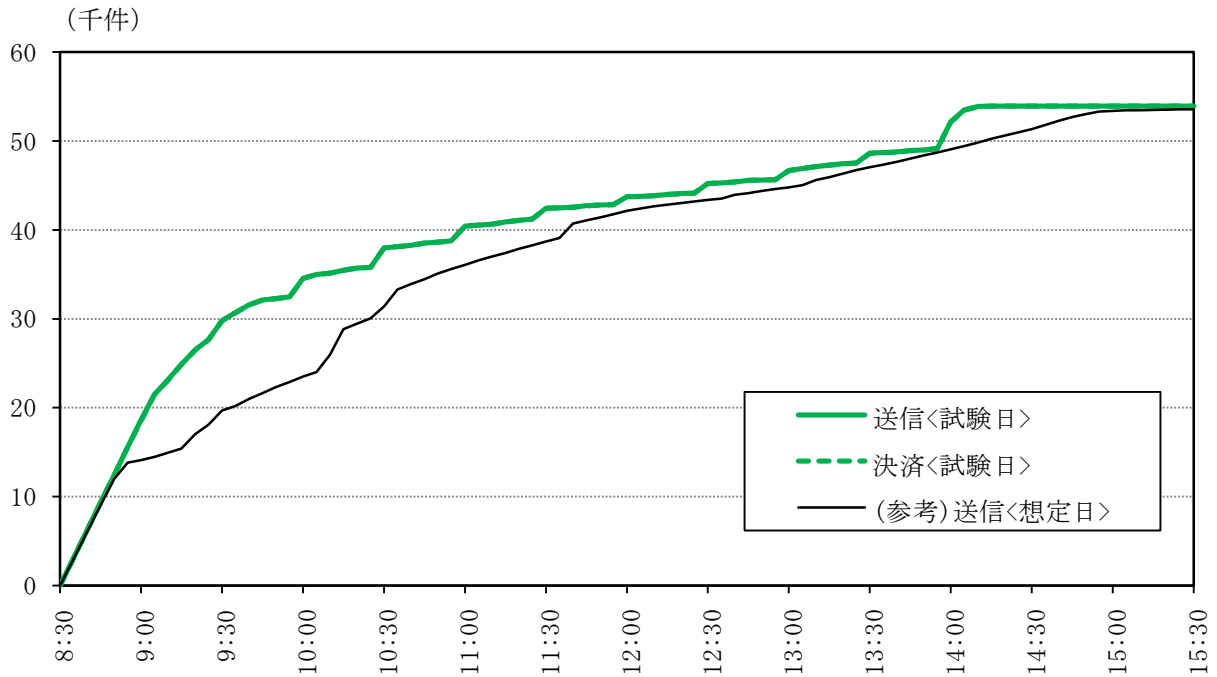
- (注)1. 「～15分」には、日銀ネット上の受付時刻と決済時刻が同一である待機後・単独決済および待機後・二者間同時決済処理の取引を含む。

運用確認試験第1回における決済データの集計結果

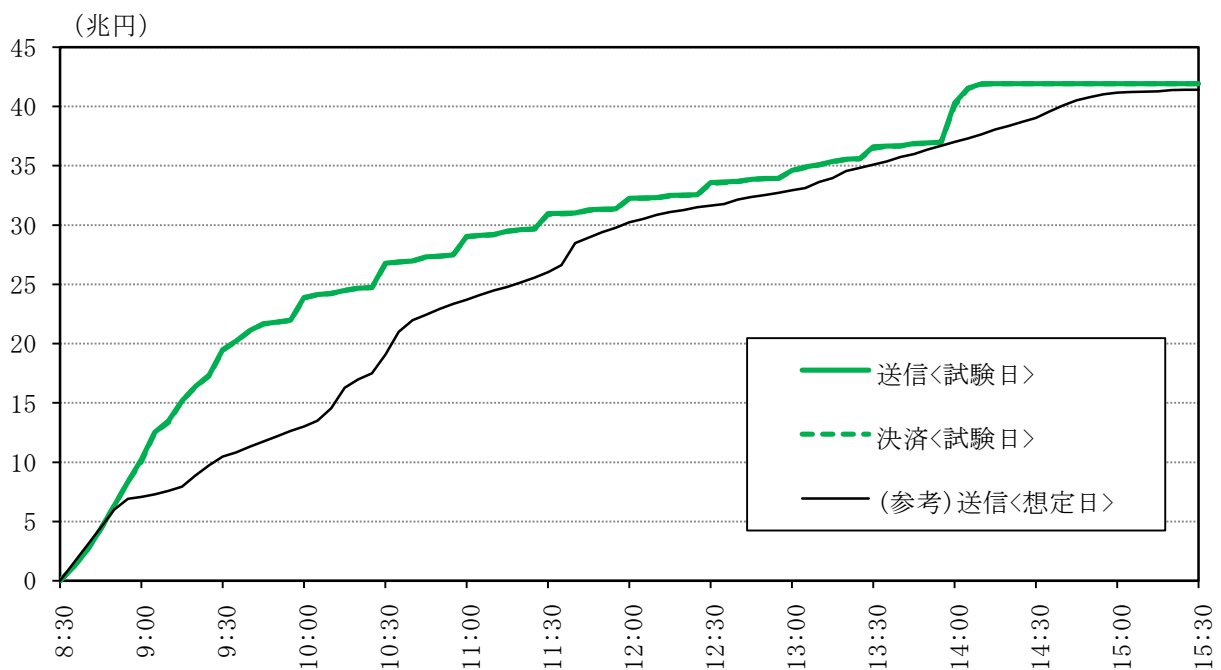
5. 運用確認試験第1回における決済進捗

(1) 大口内為取引

① 件数ベース



② 金額ベース



(注) 1. 運用確認試験では、当座勘定(同時決済口)の終了時刻を15:30と設定している。これに伴い、運用確認試験では、指図投入時刻が14:00～16:00の取引は一律14:00に、指図投入時刻が16:00～17:30の取引は一律「2時間早い時間」に読替えを行っている。

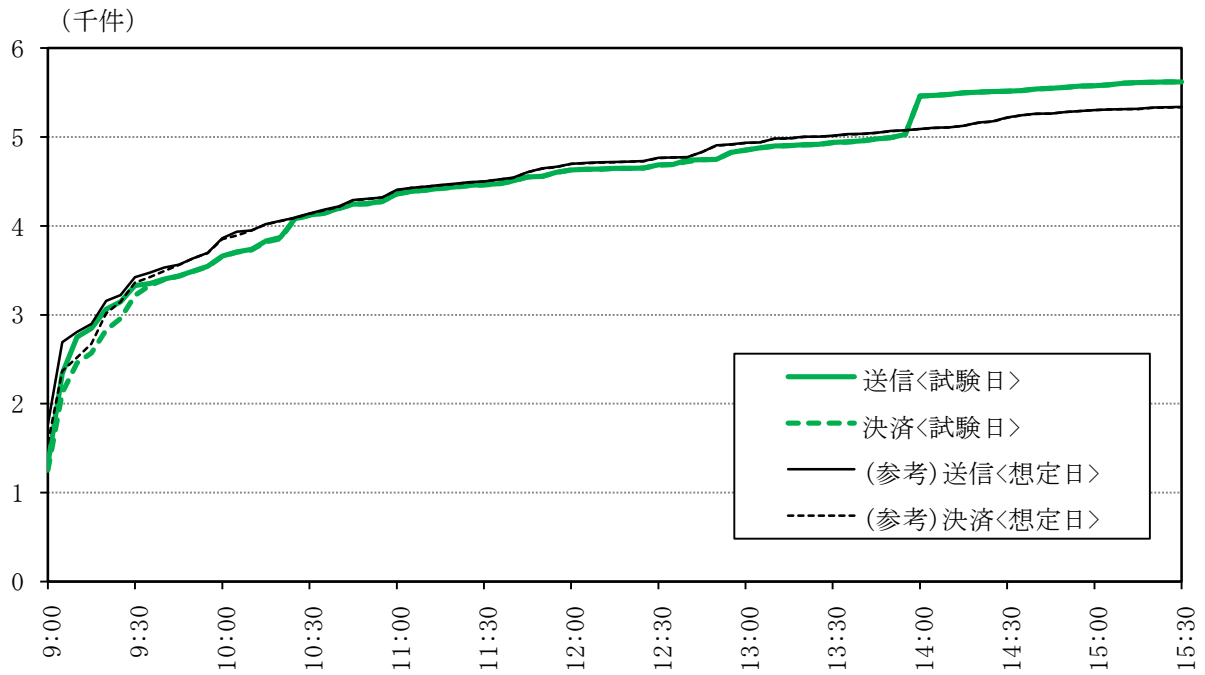
2. 全銀システムが加盟銀行から受信した取引は、全銀システムが予め設定した一定の送信ペースを超えない範囲で全銀システムから日銀ネットに順次送信される仕様。想定日の決済進捗もこれを前提として算出している。

運用確認試験第1回における決済データの集計結果

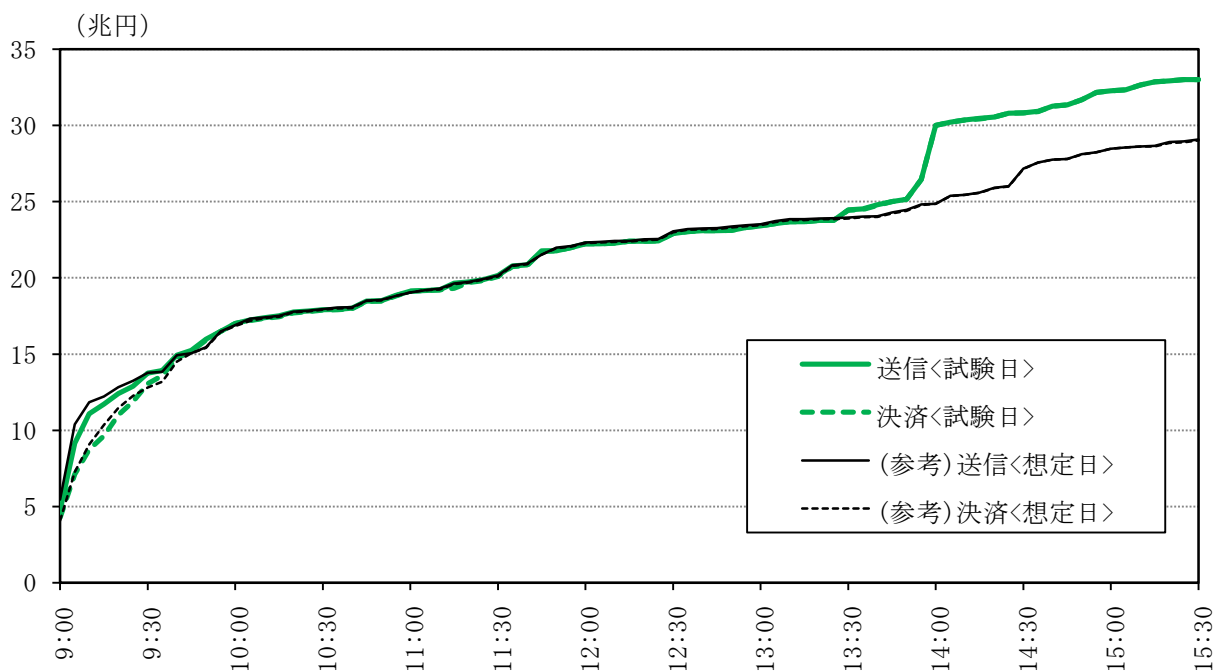
5. 運用確認試験第1回における決済進捗

(2) 市場取引

① 件数ベース



② 金額ベース



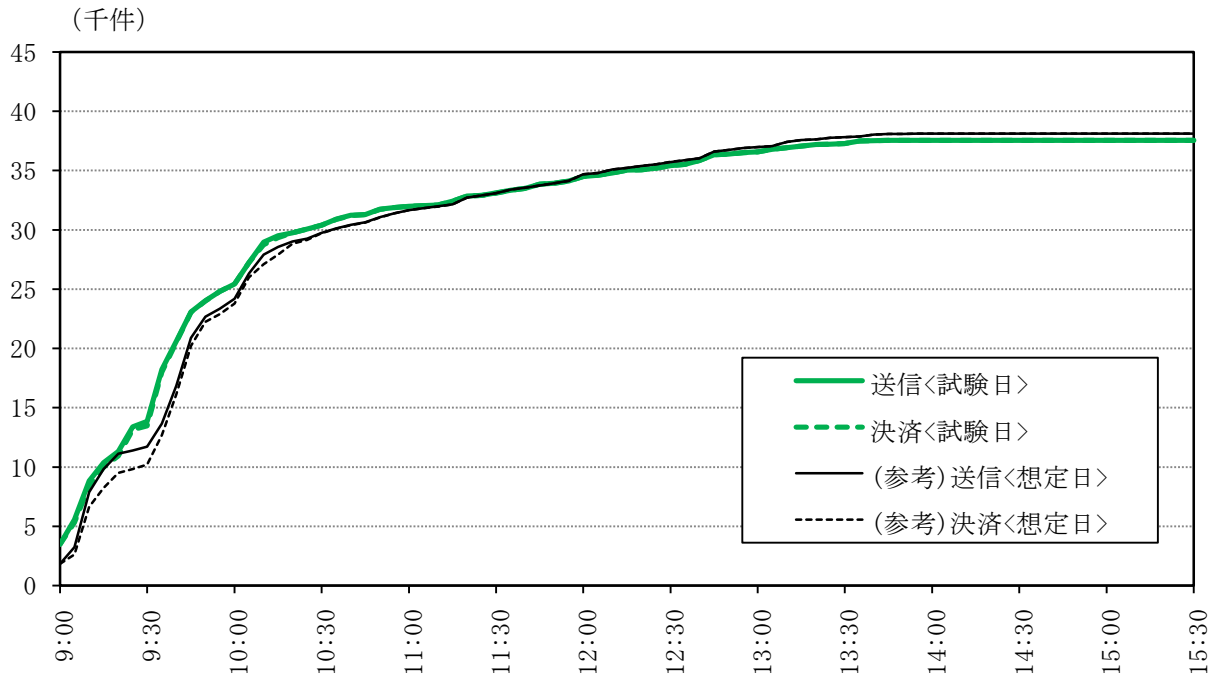
(注) 1. 運用確認試験では、当座勘定(同時決済口)の終了時刻を15:30と設定している。これに伴い、運用確認試験では、指図投入時刻が14:00～16:00の取引は一律14:00に、指図投入時刻が16:00～17:30の取引は一律「2時間早い時間」に読替えを行っている。

運用確認試験第1回における決済データの集計結果

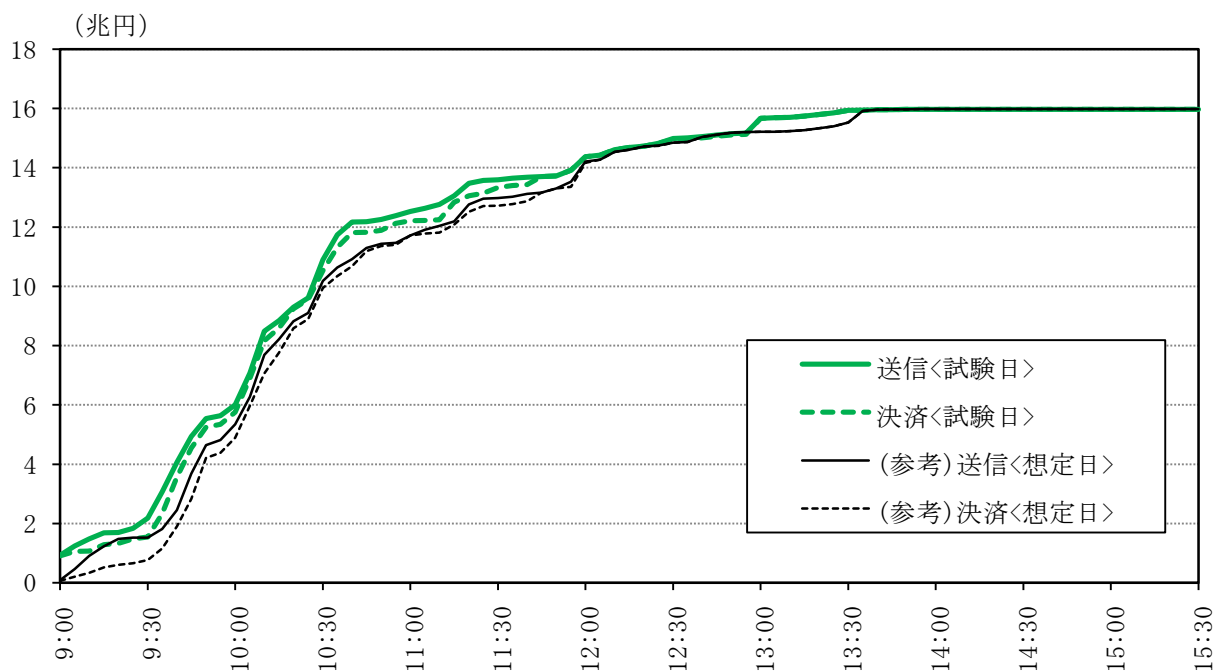
5. 運用確認試験第1回における決済進捗

(3) 外為円取引

① 件数ベース



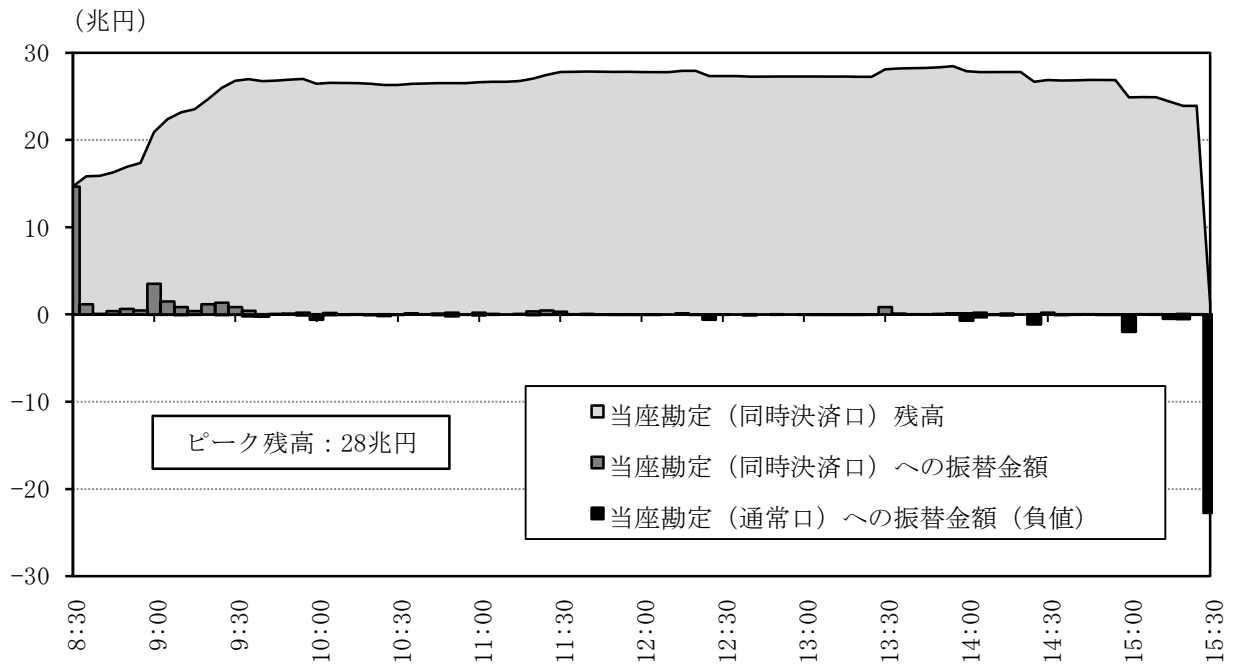
② 金額ベース



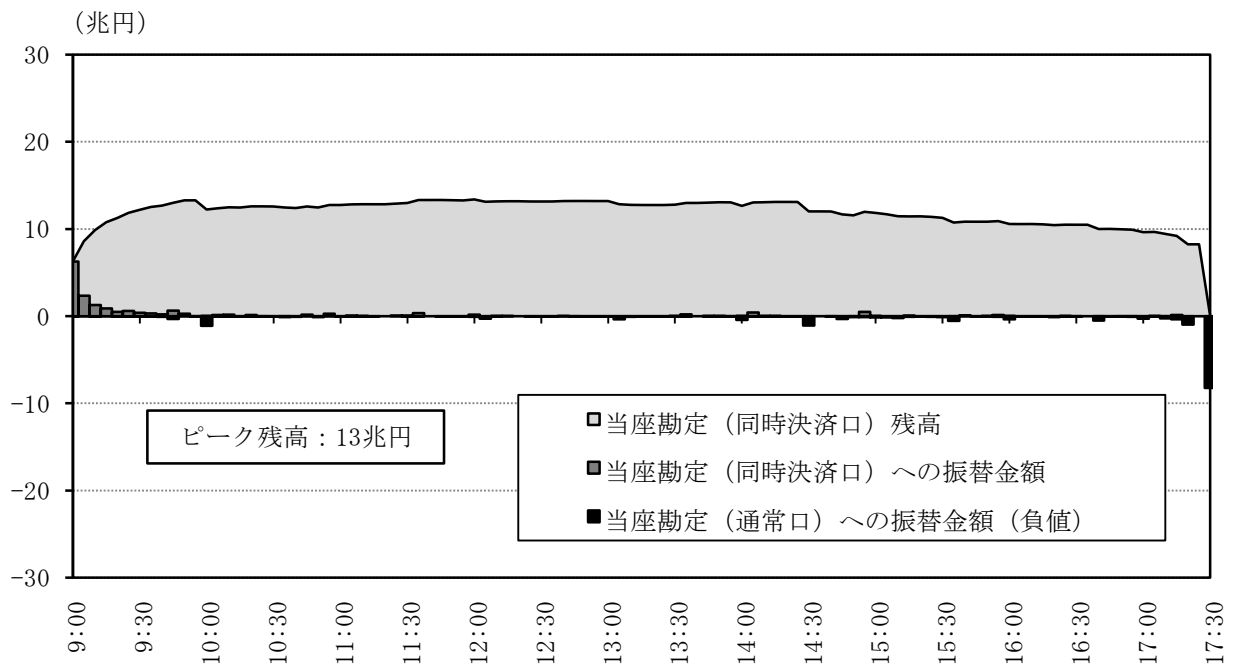
(注) 1. 運用確認試験では、当座勘定(同時決済口)の終了時刻を15:30と設定している。これに伴い、運用確認試験では、指図投入時刻が14:00～16:00の取引は一律14:00に、指図投入時刻が16:00～17:30の取引は一律「2時間早い時間」に読替えを行っている。

運用確認試験第1回における決済データの集計結果

6. 運用確認試験第1回における当座勘定(同時決済口)残高の日中推移



(参考) 想定日(3月31日)における当座勘定(同時決済口)残高の日中推移



- (注) 1. 運用確認試験では、当座勘定(同時決済口)の終了時刻を15:30と設定している。これに伴い、運用確認試験では、指図投入時刻が14:00～16:00の取引は一律14:00に、指図投入時刻が16:00～17:30の取引は一律「2時間早い時間」に読替えを行っている。
2. 運用確認試験の決済データからは、自己勘定間振替の金額が極端に大きい取引(1件5兆円以上)を一律控除している。

7. 決済用資金の回転率

	(倍)	
	運用確認試験第1回	(参考) 想定日(3月31日)
回転率	3.2	3.7

- (注) 1. 回転率は、決済金額/当座勘定(同時決済口)残高のピーク金額

次世代 RTGS (第 2 期対応) 運用確認試験 第 1 回結果 (大口内為)

7 月 18 日 (月・祝) に実施した次世代 RTGS (第 2 期対応) 運用確認試験第 1 回の結果は下記のとおり。

結果	<ul style="list-style-type: none">・ 平 23 資業全第 69 号により参加者宛に依頼したアンケートについては、全参加者から回答があった。・ シナリオに沿って問題なくテストが実施できたか、の観点については、143 参加者中 141 先、大口内為取引の支払指図の送信ならびに資金決済に関する申合せに即した為替交換ならびに決済が実施できたか、の観点については、143 参加者中 142 先から問題なく実施できたとの回答があった。一部実施できなかった加盟銀行については、原因は人為的ミスであり、試験全体の進行に影響はなかった。・ 「全銀システムへ送信した大口内為取引が、日銀ネットに直ちには投入されなかった」旨の問い合わせ、報告が 5 件寄せられた。<ul style="list-style-type: none">－本件の原因は、運用確認試験当日、参加者が第 2 期対応後に想定している電文送信タイミングにて送信したことによる。 (大口の電文は第 2 期対応前と比して早い時間に全銀センタに到着する)－結果として、日銀ネット開局前に全銀センタにおいて保留となっていた電文の処理に一定の時間は要したが、全銀システムから日銀ネットへの電文の送信は、設定した値で問題なく行われた。
考察	<ul style="list-style-type: none">・ 日銀ネット開局前に全銀センタにおいて保留となっていた電文の処理に一定の時間を要したが、<ul style="list-style-type: none">－先日付分の処理は午前 9 時まで完了している－原因が加盟銀行からの電文送信の早期化であるため、被仕向銀行への入金は現行より早期化されていると考えられる

以上から、内国為替制度の観点からは、試験結果に問題はなかったものと評価する。なお、大口内為取引の支払指図の送信ならびに資金決済に関する申合せについては、運用確認試験第 2 回の結果も踏まえて、改めて評価することとする。

以 上

平成23年8月5日
短期金融市場取引活性化研究会

次世代 RTGS 第2期対応 第1回総合運転試験 (7月18日実施) 市場取引に関する評価について

1. 評価

(1) 評価

市場取引に関しては、短期金融市場取引活性化研究会（以下、当研究会）が実施したアンケート調査および運用確認試験第1回結果報告書の集計結果より、第2期対応後の決済環境において、概ね参加者が現行の市場慣行に基いて取引データの投入および決済を行えたことを確認いたしました。

また、本試験の内容および「実施手順書（市場取引編）」については、「第2期対応後の当座勘定（同時決済口）の決済環境に応じた所要資金の準備や決済の進捗管理等にかかる運用実務の確認・習熟を図る」という本試験の目的に照らして概ね妥当であったと評価いたします。

(2) 個別のアンケート結果

アンケート提出先の95%以上から、「実施手順書（市場取引編）」に沿ったテストができたとの回答を頂きました。一部の参加者からは、大口内為に関する実取引データのうち、被仕向分の受信が一部未了となった、内為専用時間帯に決済すべき大口内為取引の決済が9時以降に遅延した、などにより「実施手順書（市場取引編）」に沿った試験が実施できなかった、との回答も頂きました。

2. 次回総合運転試験の検討課題等

一部の参加者が実施手順書（市場取引編）と異なる対応を行ったと見られることから、次回総合運転試験に向けて、実施手順書（市場取引編）を再度、周知徹底する必要があると認識しております。

3. 本番稼働に向けての検討課題等

今回の総合運転試験では、一部の参加者より、大口内為取引にかかる「月末日の早期化ルール」を遵守できなかったとの回答を頂きました。これについては、本番稼働に向けて、原因の分析、並びにそれを踏まえた当該ルールの取扱い等について参加者間で認識の共有を図ると同時に当研究会として必要な対応を検討していく予定です。

以上

<照会先>

短期金融市場取引活性化研究会幹事（三菱東京UFJ銀行）川久保康 03-6268-1652

平成23年8月10日

一般社団法人全国銀行協会
事務システム部 外国為替円決済制度管理室

次世代RTGS（第2期対応）運用確認試験（第1回・7月18日）
における紳士協定への影響に関する評価について

- 標記試験における当座勘定（同時決済口）での決済が「支払指図電文の送信に関する申合せ（紳士協定）」に与えた影響を調査するために実施したアンケート調査においては、試験参加銀行全行から紳士協定への影響はなかった旨の回答を得た。

したがって、当制度としては、上記回答を踏まえると、次世代RTGS（第2期対応）に向けて、現時点で紳士協定の見直しの必要性はないと評価する。

なお、第2回試験（9月19日）実施後、改めて紳士協定の見直しの要否について総合的な評価を行うこととする。

以 上